

## 田村 晃 院長

31 最終更新日：2025/08/22



### 地域に必要な病院をめざし地域連携にも注力

京急蒲田駅から徒歩10分。オフィスビルや住宅が混在する大田区南蒲田で、「東京蒲田医療センター」は前身となる社会保険病院の開院から80年近く診療を続けている。地域の医療ニーズに応える幅広い診療科を持ち、「加えて地域包括ケア病棟による患者のリハビリテーション、在宅医療支援にも対応するのが特徴です」と田村晃院長。内科分野の外来には消化器、循環器、呼吸器、糖尿病など各分野の専門家がそろう。外科分野は消化器外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、眼科のほか、歯科口腔外科では嚥下障害に対応し、入院患者の口腔ケアにより口腔内汚染の防止にも尽力。また肝臓、腎臓、肩関節といった分野に新たな医師が加わり、診療の幅をさらに拡充した。「そうした中でも特に地域ニーズが高い救急医療と高齢者医療に注力し、例えば救急では日中には専任の医師を配置して救急車を待たせない・断らない体制めざしています」。地域の医療・介護連携にも積極的に取り組み、「今後はさらに地域に密着した病院になりたい」と語る田村院長に、同院の特徴や地域医療への想いを聞いた。（取材日2025年7月29日）

### この病院の地域での役割や特徴をお聞かせください。

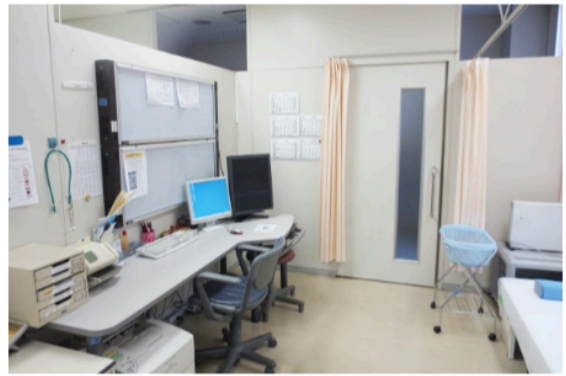
当院はこの地で80年近く診療を続け、230床の規模ながら地域の医療ニーズに応えて幅広い診療科を持つ地域密着の病院です。高齢の方に多い病気にも対応できるよう、泌尿器科、整形外科、循環器内科、糖尿病代謝内科、腎臓内科などの診療科も設け、透析室では血液透析治療を行っています。また救急医療は東京都指定の二次救急医療機関として24時間365日対応。日中は救急専任の医師を中心に他の診療科が協力する体制で、夜間は当直の医師が診るなど「断らない救急」をめざしています。ほかに患者さんは近隣のクリニックの先生方からのご紹介に加え、49床設けた地域包括ケア病棟では急性期病院での治療を終えた患者さんを受け入れ、リハビリテーションによりご自宅や施設に戻るよう体力や身体機能の回復をサポート。さらに在宅療養後方支援病院でもあり、在宅療養中の患者さんの一時入院にも対応します。





## ■ 新たな診療体制や設備など最近の動きはいかがでしょうか？

前述した専任医師配置による救急医療の強化も最近の取り組みの一つで、専任の医師が受け入れ窓口となって即時対応することで救急隊からの搬送ニーズに応え、救急車の受け入れ件数も増えています。また消化器内科には、2024年から肝臓を専門とする医師のチームが加わりました。それによって良性腫瘍まで肝臓の病気を幅広く診療でき、この地域に多いアルコール性肝炎、生活習慣病などによる代謝性の肝臓病などの診断と、より専門的な治療も可能になりました。さらに、血管の状態を詳しく調べる血管造影室も新しくなり、肝臓がんの検査などに役立っています。ほかにも診療範囲が広い整形外科には肩関節が専門の医師が加わり、いわゆる四十肩・五十肩と似た症状を示す肩腱板断裂に対する関節鏡手術、人工肩関節置換術などが行えるようになりました。



## ■ 地域の医療・介護連携にはどう取り組まれていますか？

当院は地域医療を支える目的で設立されたJCHO（独立行政法人 地域医療医療機能推進機構）の一員で、地域で必要とされる医療の提供が使命と考えています。私は副院長時代に地域連携も担当しましたが、地域連携を担う当院の地域連携室は非常に重要で、現在はソーシャルワーカー3人と事務職員、看護師が地域のクリニックや病院、介護施設と連絡を取り、スムーズな入退院に努めています。特に地域包括ケア病棟からの退院は在宅復帰が前提のため、高齢や独居などで自宅での生活が難しい場合は、ソーシャルワーカーが地域のケアマネジャーと密接に連絡を取り、介護スタッフも交えたカンファレンスを重ねて適切な受け入れ施設を決定しています。また、これまで在宅療養中の患者さんの一時入院やご家族の希望によるレスパイト入院に対応していましたが、今後は地域の介護施設に入所中に容体が悪化して入院が必要になった方も積極的に受け入れていきます。



## ■ 病院としてもより地域密着の診療をめざされるのですね。

今後はより地域連携を深めるため、当院からの情報発信の強化が必要と考えています。すでに地域連携室のスタッフが近隣の医療機関をこまめに回り、院内では地域連携の会を開くなど、患者さんのご紹介に役立つよう当院の強みなどを伝えています。ただ社会保険病院を前身とし、現在も独立行政法人という公的な立場のためか、ややもすれば受け身の姿勢も院内に感じられます。また建物の存在感に対して、近隣の方々の認知は低いかもしれません。そのような背景もあり、医療と直接関係はありませんが、祭のときに地域を巡るみこしに当院の敷地で休憩をとっていただくよう相談しました。ありがたいことに「患者さんやスタッフもみこしを見て元気になってもらえれば」と快く引き受けていただけました。このように地域のイベントにも積極的に関与し、地域の皆さんに親しまれることも大切にしたいですね。



## ■ 地域にお住まいの方や医療機関にメッセージをお願いします。

当院は診療体制のほかにも、救急医療と高齢者医療に力を入れています。例えば歯科口腔外科では高齢になると衰える嚥下能力を多職種連携の造影検査などで判定し、回復をめざすリハビリテーションをサポートするほか、各診療科の入院患者さんに対する口腔ケアで口腔内汚染の防止に努めています。歯科口腔外科に限らず、こうした診療科を超えたチーム医療は当院ではごく自然なこと。定期的カンファレンスを待たずとも、医局内で声をかければ内科・外科の医師が集まっ



て話し合い、患者さんに適した治療を迅速に検討できる環境です。もちろん東邦大学医療センター大森病院をはじめ近隣の病院との連携も良好で、より専門的な治療が必要な患者さんのご紹介もスムーズです。今後は近隣の医療機関、介護施設、地域の皆さんとの関係をさらに深めて、より安心して紹介でき、受診できる病院をめざしますので、どうぞご利用ください。



### 田村 晃 院長

1992年東邦大学医学部卒業後、第二外科入局。肝胆膵分野を専門とし、東邦大学医学部附属大森病院（現・東邦大学医療センター大森病院）をはじめ関連病院で診療に従事する。東邦大学医学部講師を経て、2015年に東京蒲田医療センター外科部長に就任。2020年4月から副院長を務め医療安全や地域連携を担当した後、2025年4月から現職。10km離れた自宅から週3日は自転車で通勤するなどアクティブな一面も。



[独立行政法人地域医療機能推進機構 東京蒲田医療センターの基本情報を見る](#)